

江戸講談と江戸俳諧

◆ 真説 忠臣蔵前後 ◆

一般公開
入場料
無料
(予約不要)

元禄15年12月14日、江戸の太平を騒がす事件が起きました。主君の無念を晴らすべく、赤穂浪士47士が吉良上野介邸を急襲、みごとに主君浅野内匠頭の仇を取りました。後に歌舞伎や浄瑠璃で有名となる「忠臣蔵」です。

この事件は大きな関心を集め、そのため虚実交々(こもごも)の話が巷間で取りざたされ、江戸の講談師たちも大いに舌を揮いました。

大高源吾の話もその一つです。大高源吾は沾徳門の俳人で、蕉門の高弟として著名な宝井其角とも親交がありました。俳号を「子葉」と言います。ひそかに討ち入りのタイミングを探っていました。そして、明日はいよいよ討ち入りという日に煤竹(すすたけ)売りに身をやつした源吾は其角と両国橋で会います。そこで「年の瀬や水の流れと人の身は」と問いかけた其角に対して、源吾は「あしたまたるその宝船」と応酬したと言われています。

また、「梅で呑む茶屋もあるべし死出の山」という辞世の句を残しました。

このたび日本女子大学文学部・同大学院と俳文学会との共同企画で、江戸講談師の神田鯉風師をお招きして、この忠臣蔵前後にスポットをあてたシンポジウムを開催します。

とき 2016年10月29日(土) 13:30~15:00 (13:00開場)

ところ 日本女子大学目白キャンパス 80年館5階 851教室

講談

神田 鯉風 (講談師)

- コメンテーター
 - 稲葉 有祐 (立教大学)
 - 竹田 美喜 (松山市立子規記念博物館)
- コーディネーター
 - 福田 安典 (日本女子大学)

■ アクセス

- JR 山手線 目白駅から徒歩約 15 分 / バス約 5 分
- 【都営バス(学 05)】日本女子大前行き(直行)
- 「目白駅前」バス停(2)乗車、「日本女子大前」バス停(4)下車
- 【都営バス(白 61)】新宿西口行き又はホテル椿山荘東京行き
- 「目白駅前」バス停(1・3)乗車、「日本女子大前」バス停(5)下車
- 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅(3番出口)徒歩約 8 分
- 東京メトロ副都心線「護国寺」駅(4番出口)徒歩約 10 分

お問い合わせ先

日本女子大学文学部日本文学科中央研究室 東京都文京区目白台2-8-1
 TEL: 030-5981-3522 E-mail: gakuju@fc.jwu.ac.jp
 担当: 福田安典

同時開催

日本女子大学所蔵連歌俳諧資料展
 「連歌提要」から「現代俳句提要」へ

木藤才蔵先生、中島斌雄先生ゆかりの資料を中心に展示します。

■ 10/28 (金) 10:00~16:00
 ■ 10/29 (土) 10:00~13:00

於 成瀬記念館1階

